慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1958
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). (1958. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19580201001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾経済学会

二月号

経済学関係文献目録	マーケティング・リサーチの現状 資 料	W・トムスンの分配論	リカード学派古典学派の崩壊と「賃労働」分析の転換	下向分解=農家兼業化について―――水田二毛作地帯における――水田二毛作地帯における農民層分解に関する一考察	社会保障と社会階層の理論	論説
	: 佐	自	: 井	平	; 中	
	藤	井	村	野	鉢	
			喜代	絢	Œ	
	保(克)	厚(益)	子(豐)	子会会	美二	
					The state of the s	

第五十一卷

第二号

昭和二十五年 十:月二十四日 第三種郵便物腎可昭和二十六年 二月 十三 日,国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三昭和三十三年 二月 一日 発 行。昭和三十三年 二月 一日 発 行。

三田学会雑

定価 金九〇円 (

MITA GAKKAI ZASSI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 51, No. 1

January, 1958

CONTENTS

The Basic Conditions of Japanese Economy	Ра д е (1)
A Study of Necessity Elements for	
Budgetary Control	(23)
Some Aspects of Competition in Retail Trade	(40)
	(42)
Interest as a Cost	(62)
A Study of Inventory Valuation	(78)
I. Kataoka Interest as a Cost	(62)

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

審評及び紹介

ショージ・テート共著『イギリス労働運動史』…A・L・モートン

田 鼎(公)

社会保障と社会階層の理論

中 鉢 正 美

世界の政策上の諸縣案が、その実現をめぐって次第にひとつの壁で展開されてきたということができる。それらをいまかりに、保険学的動向、社会政策学的動向、および財政学的動向とよんでおくこととしたい。その最初のものは、戦前の社会保険理論が主として保険学出身の先覚者達によって提唱されたこと、および当時のわが国社会保険行政が専ら保険学的技術を要求することが大きかったこと等にも由来して、特に初期においては顕著であった動向といってよかるう。ところが戦後個々の社会保険を統合して社会保障の体系を造りあげようとする動きが活潑となるにつれて、その基礎が次第に社らあげようとする動きが活潑となるにつれて、その基礎が次第に社会政策の理論に求められるようになってきたのである。そして現在にいたるまでの社会保障論は、どちらかといえばこの社会政策論上の立場をめぐって展開されてきたものとみることができよう。しかの立場をめぐって展開されてきたものとみることができよう。しかの立場をめぐって展開されてきたものとみることができよう。しかの立場をめぐって政策に入いて、保険

るその解明への試みが抬頭するにいたっている。に基く論議、特に近代経済学の理論に立脚する財政学の観点よりすに行きあたり始めるとともに、新たな動向として国家財政上の知識

在社会政策学的社会保障論についていますこしく考えてみると、それ社会政策学的社会保障論についていますこしく考えてみると、そのうちにもほぼ三種類の傾向を認めることができるようである。まずその最も支配的と思われる議論の立てかたをあげるならば、例えばわが国の憲法第二五条の規定に基いて、主権在民の民主主義国家が国民の生存権を保障する政策の一環として、社会保障の制度を理解しようとするものである。生存権の思想は、周知のごとく啓蒙哲学に基く自然法の理論にその源流を求めることができる。それは自学に基く自然法の理論にその源流を求めることができる。それは自学に基く自然法の理論にその源流を求めることができる。それは自学の政治的民主主義の思想をうみ、更にそれによって確立された財務の政治的民主主義の思想をうみ、更にそれによって確立された財務の政治的民主主義の思想をうみ、更にそれによって確立された財務の政治的民主主義の思想をうみ、更にそれによって確立された財務の政治的民主主義の思想をうみ、更にそれによって確立された財産所有権が資本の私有に基く経済生活の不平等をひきおこすにつれるの政治の意味を表示しています。

社会保障と社会階層の理論